



校長室の窓



令和8年2月24日

学校だより第11号より

～図書室はみんなの居場所～

うれしい報告が一つあります。先日、本校の教務主任が、本校の図書館づくりの取組を弘済会の教育論文にまとめ、入賞しました。題目は「地域とともに育つ学校図書館の再構築と総合的な価値の研究」で、本校の図書室を「子供の目線」で少しずつ変えてきた歩みについて書かれています。

現在、図書室は週2回の放課後子供教室の居場所としても日々活用され、明るく清潔で広々とした中で、宿題に取り組んだり、思い思いに過ごしたりする場になっています。しかし以前は、図書室が十分に活用されているとは言えない時期もありました。そこでこだま隊が中心となり、「子供が来なくなる図書室」を合言葉に環境づくりを進めてくださいました。

本棚を思い切って整理し、子供がすっぱり入り込める読書スペースをつくったことは、その象徴です。静かに守られた小さな空間が安心感となり、落ち着いて本の世界に没頭できるようになりました。また、読書の習慣がまだ十分でない子のために、あえてまんが本も取り入れました。「まずは手に取るきっかけを」というねらいどおり、まんがから本の世界に入り、図鑑や物語の本へと興味を広げる姿も見られ、今では本校の子供たちはより一層読書を楽しんでいます。

こうした環境づくりと並んで、年に10回ほど、こだま隊による業前の読み聞かせをしていただいています。子供たちはこの時間を心待ちにしている、読み手の方がいらっしゃると、みんなで玄関まで出迎えに行きます。「お荷物お持ちします」と進んで手提げ袋を持つ子もいます。「〇〇ちゃん、げんき?」「〇〇さん、大きくなったねえ!」と、読み手の方は、一人ひとりの子供に声を掛けてくださいます。子供たちは自分に目を向けてもらい、認められていることを感じます。読み聞かせは、本を好きにする活動であると同時に、子供たちの心を温かく育む時間にもなっているのです。

本校の子供たちの「本が好き」は、地域の皆様の支えの上にあります。これからも、この図書室を大切に守り、子供たちの学びと心の育ちにつなげていきたいと思っています。